

衆議院原子力問題調査特別委員会ニュース

平成 26. 8. 7 第 186 回国会第 9 号（閉会中審査）

8 月 7 日（木）、第 9 回の委員会が開かれました。

1 原子力問題に関する件

- ・ 櫻田文部科学副大臣、赤羽経済産業副大臣、井上環境副大臣、磯崎経済産業大臣政務官、田中原子力規制委員会委員長及び政府参考人並びに参考人に対し質疑を行いました。

（参考人）東京電力株式会社代表執行役社長

廣瀬直己君

（質疑者及び主な質疑内容）

細田健一君（自民）

- ・ 野党の議員連盟が平成 20 年 4 月 27 日に実施した日本原子力発電株式会社敦賀発電所敷地内の断層の視察に、技術顧問として同行していた有識者二人が、原子力規制委員会の発電所敷地内破砕帯の調査に関する有識者会合のメンバーに選任されているのは問題であり、解任すべきと考えるが、田中原子力規制委員会委員長（以下「田中委員長」という。）の見解を伺いたい。
- ・ 上記有識者の一人がメンバーとなっている敦賀発電所敷地内破砕帯の調査に関する有識者会合は、初めから同発電所の下に活断層があるとの前提で検討が進められている疑念があるため、白紙に戻して新しいメンバーの下で検討すべきと考えるが、原子力規制委員会の見解を伺いたい。

菅野さちこ君（自民）

- ・ 東京電力福島第一原子力発電所（以下「福島第一原発」という。）事故による避難生活者の帰還に向けた取組の進捗状況、賠償の実施状況及び今後の早期帰還の見通しについて復興庁に伺いたい。
- ・ 中間貯蔵施設の整備に係る工程表の進捗について環境省に伺いたい。併せて、同施設の建設合意が得られた場合の道路整備等の搬入計画、周辺住民への被ばく防止対策、周辺自治体への支援策等の計画を早急に立てる必要があると考えるがこの点についても伺いたい。

辻元清美君（民主）

- ・ 政府は 6 月 27 日付の「カルデラ噴火の兆候把握等に関する質問に対する答弁書」において、噴火の具体的な発生時期や規模を予測することは困難であるとする一方、原子力規制委員会は、カルデラ噴火は数十年前に判るとする九州電力の判断を是としており、これは矛盾していると考えますが、田中委員長の見解を伺いた

い。

- ・ 火山という特殊な事項については手厚く議論し対応を考えておかなければならないが、火山噴火に伴う緊急時の核燃料輸送については、どこまで対応させるつもりであるか田中委員長の見解を伺いたい。
- ・ 九州電力川内原子力発電所（以下「川内原発」という。）の再稼働について、関係自治体の範囲を明らかにし、政府、事業者、規制委員会の責任関係をどのように整理して進めていくつもりなのか、赤羽経済産業副大臣の考えを伺いたい。

椎名毅君（維結）

- ・ 原子力発電所の再稼働においては、定まった地元の同意プロセスが無く、同意に関する規定や法的根拠も無い状況にある。再稼働に当たり地元の同意を得るための法的根拠等を定める必要があると考えるが、磯崎経済産業大臣政務官の見解を伺いたい。
- ・ 自治体が作成する避難計画について、その実効性を国において検証する必要があると考えるが、政府の見解を伺いたい。

足立康史君（維結）

- ・ エネルギー基本計画（平成 26 年 4 月 11 日閣議決定）における原子力発電所の再稼働についての書きぶりは、再稼働の判断を原子力規制委員会に委ねているように読め問題があると考え。これに対する田中委員長の見解と再稼働に当たり国において政治判断を行う必要性について赤羽経済産業副大臣の見解を伺いたい。
- ・ 原子力損害賠償支援機構法附則第 6 条に規定する原子力損害賠償制度における国の権限と責任の見直しが終わらない中で再稼働を行うことは問題があると考え。原子力損害賠償制度の見直しに関する副大臣等会議の今後の開催見通し及び原子力損害賠償制度の当面の課題について政府の見解を伺いたい。

西 田 讓君（次世代）

- ・現在、国内の全原子力発電所が稼働していない法的根拠を、原子力規制庁に伺いたい。
- ・原子力規制委員会は、新規制基準に適合しないと認められるときは、その発電用原子炉施設の使用の停止を命じることができるにもかかわらず、同基準に適合していなかった関西電力大飯発電所3・4号機が、同基準の施行から定期検査による停止までの2か月にわたって稼働し続けた理由を原子力規制庁に伺いたい。

斉 藤 鉄 夫君（公明）

- ・原子力規制委員会は、新規制基準が世界最高水準の厳しい基準であるということを、専門家として国民に分かりやすく説明する責務があると考えているが、田中委員長の見解を伺いたい。
- ・鹿児島県の避難計画においては、5km圏内である予防的措置範囲（PAZ）における措置を10km圏内の要援護者についても準用するとしているが、これをどのように評価しているのか、政府に伺いたい。

山 内 康 一君（みんな）

- ・原子力規制委員会の東京電力福島第一原子力発電所における事故の分析に係る検討会（平成26年7月18日）における、外部専門家の大学教授の「国会事故調査委員会による聞き取り調査で発言を強要するようなことが行われたと聞いている」旨の発言部分の音声や、同教授からの依頼に基づき、公開動画から削除した経緯と、この件に対する元国会事故調査委員会委員から原子力規制委員会への抗議文書への回答の有無について、田中委員長に確認したい。
- ・菅内閣官房長官の川内原発と同じ加圧水型原子炉であれば今後の原子力規制委員会の適合審査を簡略化できる旨の発言について、田中委員長の所見を伺いたい。

笠 井 亮君（共産）

- ・川内原発の重大事故防止対策で原子炉格納容器が破損に至るまでの想定時間について、九州電力が用いた解析コードとは異なる解析コードで別途原子力規制委員会がクロスチェックを実施したか否かについて、田中委員長に確認したい。
- ・川内原発の適合性審査で、重大事故シーケンスごとに九州電力が必要な要員数として示した52名で対応可能と原子力規制委員会が判断した根拠は何か。また、米軍の軍用機が上空を飛行する可能性がありながら、原子炉格納容器を二重化していないなど、川内原発の安全性に危惧があるが、世界最高水準の基準に適合し

た原発と評価した田中委員長の見解を伺いたい。

玉 城 デニー君（生活）

- ・度重なるトラブルで停止と稼働を繰り返している多核種除去設備（ALPS）について、現在の稼働状況はどうなっているのか廣瀬東京電力社長に伺いたい。
- ・福島第一原発事故直後、被ばく線量が法令の上限に達する作業員が相次ぎ、事故対応を継続するために国が急遽上限を引き上げたが、被ばく線量の制度について、原子力規制庁は上限引き上げの対象に一般国民も含んで検討しているのか伺いたい。